

金城学院で活躍する
先生をピックアップ

Kinjo Spirit

金城スピリット

表現や鑑賞を通して発想力と創造力を養い

これからの社会を生きる糧にしてほしい。

表現したいものを自分の感性や個性で表現する。

それが美術の魅力であり、面白いところ。

授業時間は少ないけれど、美術教育は必要であり、

果たしている役割も大きい、と森川信義先生。

美術教諭になって39年。生徒、保護者、卒業生、教職員……

すべての出会いに感謝しながら、今日も生徒に向き合っています。



マグリットの世界観に魅せられた大学時代。

中・高時代は剣道部に所属。小さい頃からピアノを弾くことが好きだったこともあって、大学・大学院の6年間は合唱部に所属していました。短い間でしたが指揮者も経験しました。合唱は今も好きで、管弦楽と合唱による「メサイア演奏会」には毎年参加しています。これは1952年から続いている金城学院恒例の演奏会で、毎回感動を新たにしています。これからも続けていってほしい行事です。

学生時代は6年間寮生活をしていました。ある時、寮祭の大看板の絵を頼まれ、マグリットの『大家族』を4m×3mに拡大して描きました。この絵は、大空が羽ばたく鳩の形に切り取られており、鳩の内側には平和な青い空が描かれ、外側は嵐を予兆するような暗い空が表現されています。世界平和への祈りを込めて描いた作品だと思えます。

寮は大学の構内にあり、夜中まで絵を描いたり、チェーンソーで木を切ったり。誰にも縛られず自由に表現活動をしていました。今、私が生徒たちに自由にやらせているのも、この時代の経験があったからかもしれません。

自分の手を使って、細部までいねいに表現する。

大学院時代は、学業のかたわら幼稚園や工業高校の非常勤教師も兼務。そんな時に縁あって金城学院を紹介され、美術教諭として赴任しました。現在、金城学院中学校の美術教諭は2名。各学年4クラスずつ持っているほか、高校2年生の選択授業も受け持っています。授業では、まず人物画や静物画から始め、色彩、切り絵、レタリング、ポスター、木彫と、学年を追って取り組んでいきます。ただ、美術の時間が週に1時間（1年生は1.5時間）なので、学びの質や深まりを追求するには、正直、時間が足りません。「美しい」と感じる基準もその表現方法も個々で違うので、美術は評価が難しい教科です。ただひとつ、生徒たちに言っているのは、「自分の手を使い、細部までいねいにつくる」こと。上手い、下手ではなく、そういう姿勢を一番に評価しています。

美術の面白さは、自分が表現したいものを自分なりに表現できること。美術部の顧問もしていますが、生徒たちは思い思いの絵を描き、個性を存分に表現しています。たとえ美術の道に進まないにしろ、見たり、描いたりする時間が、発想力や創造力を育ててくれます。



学生時代、マグリット（20世紀美術を代表するベルギー出身の画家）の『大家族』に惹かれ、4m×3mに拡大して描きました。現物はもちろん、写真にも残っていないのが残念です。

森川 信義 教諭 MORIKAWA Nobuyoshi

金城学院中学校

愛知教育大学大学院修士課程芸術教育専攻修了。

1982年金城学院中学校美術教諭に就任。

2015年より中学校PTA副会長も務める。

社会に出て建築関係や服飾関係に進む卒業生も多く、美術の時間で学んだことは、いつか仕事の中や日々の生活の中で生きてくると思っています。

**いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。
どんなことにも感謝しなさい。**

新約聖書：テサロニケの信徒への手紙一、第5章 16節 - 18節

私は皆さんに支えられて39年目の教員生活を送っていますが、「どんなことにも感謝しなさい」という聖書の言葉を身をもって感じています。PTA活動にも関わっていますが、保護者の方々の熱意にも、感謝ばかりです。

そんな私が今、生徒や卒業生に贈りたいのは「自分に賭けてみなさい」という言葉。誰も人生の岐路に立つ時があると思います。そんな時はぜひ、自分の可能性に賭けてみてください。たとえば私の教え子で、大学卒業後、社会人、主婦になり、そこから看護師を目指して大学に入り直した女性があります。今は自分の新たな目標を叶え、この大変な時代に看護師として活躍しています。卒業生からは折にふれてそんな便りが届きます。教師を続けていて嬉しい瞬間であり、感謝の気持ちでいっぱいです。

誌上ギャラリー



金城学院中学教員の研究論文などを掲載した雑誌『葦』。年1回発行され、表紙絵は毎号森川先生が担当していました。今では見る事ができない懐かしい風景が広がります。



『ケリーガーデン』



『栄光館の小チャペルステンドグラス』



『栄光館』



『いこいの庭』